痛いほどきみが好きなのに

2008（平成20）年４月３日鑑賞〈角川映画試写室〉 ★★★

監督・脚本・原作＝イーサン・ホーク『痛いほどきみが好きなのに』（ヴィレッジブックス刊）／出演＝マーク・ウェバー／カタリーナ・サンディノ・モレノ／ローラ・リニー／ミシェル・ウィリアムズ／ソニア・ブラガ／イーサン・ホーク／ジョシュ・ザッカーマン（ショウゲート配給／2006年アメリカ映画／117分）

…… 21歳の若者が、シンガーソングライターを目指す女性との恋に落ちていく物語は、いかにもピッタリな邦題どおりの展開に！　恋愛＝セックス、恋愛＝ベッタリではなく、互いに自立した人間としての「距離」は必要。したがって、「痛いほど好き」だけでは恋愛の成就はムリ！　また、両親の離婚は、一人前の男になれないことの言い訳にはならないはず。この手の若者に手厳しいのは私の教育的観点にもとづくもの（？）だから、どうかご容赦を……。

こんな男とこんな女が、恋に……

21歳の誕生日を前に、行きつけのバーで出会った女性サラ（カタリーナ・サンディノ・モレノ）に恋をしてしまった俳優志望の若者ウィリアム（マーク・ウェバー）は、以降どんなアプローチを……？

サラはシンガーソングライター志望の女性だったが、過去の失恋のせいか、あるいは歌手として自立するという夢のせいか、ウィリアムとの恋に落ちたにもかかわらずセックスを拒否したから、やる気マンマン（？）のウィリアムは不満。そして、２人の将来にもどことなく不安が……？

これはセックスしか頭にない若者によくありがちな現象だが、俳優・作家・脚本家・監督であるイーサン・ホークが自らの体験を元に書いた『痛いほどきみが好きなのに』に沿って、そんな２人の瑞々しくもぎこちない恋模様が……。

メキシコ旅行が頂点……？

２人にとって最高に良かったのは、メキシコへの約１週間の旅。これは、ウィリアムが新作映画の撮影旅行に便乗してサラを強引に誘った結果実現したもの。いくらサラがセックスに臆病になっていても、旅先ともなれば話は別。しかも、サラがそれまでセックスを拒否していた理由が、「セックスしたら、もっとあなたを好きになってしまう、それが怖いの」ということだったから、１度結ばれてしまった２人は朝から晩までセックス漬けとなったのは当然。

ウィリアムはそれで十分満足だったようだが、女はそれほど単純ではない。まして、シンガーソングライターとして自立したいと願っているサラには、ウィリアムとの100パーセントベッタリの生活は到底ムリ。つまり、サラにはたとえ恋人であってもそこに一定の「距離」が必要だったわけだ。ところが、どうしてもそれが理解できないウィリアムは……？

ベネチア国際映画祭での評価は？

この映画は第63回ベネチア国際映画祭の正式出品作品だが、ネット情報の１つに、「ヴェネチアでの評価が非常に厳しいものが多く、日本公開がちょっと心配になっています」というのがあった。サラの生き方を全然理解できず、会うたびに議論と口ゲンカを重ね、自暴自棄になり、挙げ句の果ては「お前はストーカーか！」と思われるような行動をとっていくウィリアムの姿を観ていると、いくら恋に悩む若者であっても、「それはちょっと……」と思ってしまったから、それが作品評価につながるのはやむをえない。

若者の恋の悩みを描いた作品は山ほどあるが、もしイーサン・ホーク監督が21歳の頃、恋人に対してこんな行動をとっていたとすれば、少し反省すべきでは……？

こんな逃げ道もあったのに……？

恋人に振られた時、やむをえず前の彼女や彼氏に走ることは男でも女でもよくある（？）が、大抵の場合それはうまくいかず、余計みじめになるもの……？

ところが、ウィリアムの元カノジョのサマンサ（ミシェル・ウィリアムズ）は、ウィリアムとヨリを戻すことに積極的。それなら、「こりゃラッキー！」とばかりにウ

ィリアムもきっぱりサラをあきらめ、サマンサに乗り換えればいいのだが、ここでもウィリアムは中途半端。そんなウィリアムを観ていると、つい私はイライラ……。

「両親の離婚のせい」はちょっと……？

さらに私がイライラするのは、21歳にもなるのに母親離れができていないこと。離婚後１人ウィリアムを育てた母親ジェシー（ローラ・リニー）は、今新しい恋人と楽しい生活をしていたから、そこにウィリアムの恋の悩みをもち込まれても迷惑なだけ。母親の目にも、ウィリアムは「もういい加減一人前の男として自立しなさいよ」と映っていたはず……？

そんなウィリアムが今列車に乗って向かっているのは、テキサスに住む父親ヴィンス（イーサン・ホーク）の家。今は再婚し、子供たちと幸せに暮らしている父親に対して、ウィリアムは幼い頃に両親が離婚したため、父親から見捨てられたと感じていたようだ。したがって、家の外に父親を呼び出して語りかけている話を聞いていると、どうも彼は「今俺がこんなに恋愛に悩み、一人前の男として自立できないのは、あんたのせいだ」と言いたいよう。しかし、そりゃ筋違いでは……？

そんなウィリアムの行動や話しぶりを観ていると、さらに私はイライラ。

いかにもピッタリな邦題に感心！

この映画を観ている限り、ウィリアムがサラとの恋にもがき苦しんでいる原因は明確。つまり、セックスを含めて四六時中サラを側に置いておきたいと願うウィリアムに対して、サラはシンガーソングライターとしての自分の夢を実現するため自分の時間が欲しいから、ウィリアムとはベッタリの関係ではなく、一定の距離が必要だと感じていること。そして、この２人が別れなければならない原因は、ウィリアムはそんなサラの気持や考え方を全然理解できないほどガキだということだ。

そんな風に決めつけてしまうと身も蓋もないが、そんなウィリアムのもどかしい気持をソフトに表現したのが、『痛いほどきみが好きなのに』という邦題。この映画は観る人の年齢によって、また男か女かによって全然評価が異なるはず。来年１月に60歳となる私の目が21歳のウィリアムに対して厳しいのは、年齢のせいもあるだろうが、私としては教育的、指導的観点からのつもりだが……。

2008(平成20)年４月４日記

ミニコラム

福田さん！　今ドキこんなのあり？

突然の安倍晋三首相の退陣を受けて07年９月26日に発足した福田康夫内閣が、08年８月１日遂に内閣改造を断行した。「安心実現内閣」と命名された新布陣は、麻生派を含む党内８派閥すべてが閣僚を出す「総主流派体制」だが、福田さん、今ドキこんなのあり？

今回の「華」は野田聖子消費者行政担当相と中山恭子少子化・拉致問題担当相の起用らしいが、私に言わせればそんなテーマは二の次、三の次。優先順位のトップは何よりも日本経済の立て直しだ。中川秀直氏を中心とする「上げ潮派（＝改革派）」と与謝野馨氏を中心とする「財政再建派（＝増税派）」という対立図式はわかりやすいうえ、コトの本質をついたうまい論点整理。小泉改革における経済・財政・金融分野の司令塔となった竹中平蔵氏の跡を継いだ大田弘子経済財政担当相も今回の内閣改造で「お役御免」となったから、私の目にはもちろん外国の目にも、この改造が改革路線後退と映ったのは当然だ。

改造直後の世論調査で支持率が少し上昇したが、これは所詮ご祝儀相場。今後は「総合経済対策」「財政出動」という名の「バラまき」が復活するはずだ。原油高や食料価格高騰、それに伴う物価高や経済減速に対する緊急対策自体がダメではないが、わが国の従前の経済対策の失敗は根本的な治療をしないこと。さすがに国債発行はないだろうが、補正予算はあり。また、「骨太方針2006」が定めた2011年度にプライマリーバランスを黒字化するという財政再建目標が修正される可能性も。緊急対策的な財政出動によって、一時的にガソリン価格が下がり、イカ漁の漁師たちに束の間の安らぎが訪れるかもしれないが、根幹に巣くう病巣に手をつけずして日本国の経済の復活はありえないはずだ。さらに、道路財源の一般財源化という大切なテーマも骨抜きとされ、渡辺喜美金融・行政改革担当相の退任により、せっかく端緒についた公務員制度改革や特殊法人改革も暗礁に乗り上げる可能性が高い。

私が保有している株式はずっと塩漬け状態だが、こんな改造内閣の顔ぶれでは、株価が右肩上がりになる期待感はとてもムリ。結局来るべき衆議院解散＝総選挙において政権交代あるいは政界再編を待たなければ「この国のかたち」は見えてこないようだ。

しかし、果たしてそれまで日本国の体力は持つのだろうか？　私には暗い予測しかできないのだが……。

2008（平成20）年８月６日